

ほしいと思ったら、そく行動!

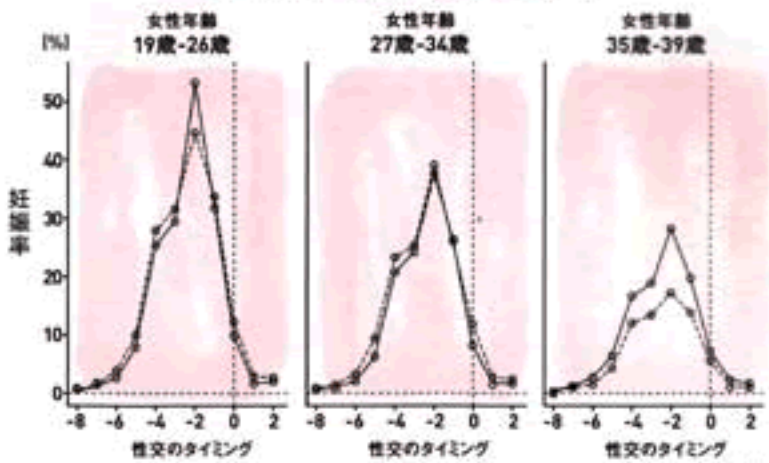
知っておきたい! 30代の不妊治療

いつかはママになりたい! その願いをかなえるためにインレッド世代が知っておくべきこと。不妊治療のリアルな現状をレポートします。

撮影=野呂知功(物)、森崎一寿美(取材) スタイルング=大工純子 取材・文=轟本あずさ 撮影協力=AWADEES

年齢別にみる排卵と妊娠率の関係

(— 男性と女性が同年齢 — 男性が女性より1歳上)



年齢別にみると35歳を過ぎると妊娠率は20代の約半分に。不妊の大きな原因は女性の年齢が影響することがわかる。また年齢を持って排卵日の数日前からタイミングを取るほうが妊娠の確率が高い。

不妊治療の基本STEP

STEP1 まずは検査(受診)

卵管やホルモンの状態など、まずは妊娠の妨げになる病気がないか基本検査からスタートを。この時、基礎体温表を持っていくのがいいが、なくても問題ない。さらに最近では、卵巣年齢がわかる「抗ミュラー管ホルモン(AMH)」の検査をする人も急増。費用トータルで5000~2万円 期間生理周期に合わせ約1か月



STEP2 タイミング療法

超音波検査やホルモン検査で排卵日を正確に予測し、受精率が高い時期に性交渉を行い、自然妊娠を促す。また性交渉後にフナーデストという、精子の子宮への入り具合を助けるための検査を行うこともある。さらに排卵障害がある場合は排卵誘発剤を使用。この場合、保険適用も。費用1000円~ 期間月2~3回×6か月程度



STEP3 人工授精

男性に精液を提供してもらい、女性の子宮内に注入すること。基本的には病院で精子を採取して、遠心分離機で洗浄し、質のよい精子をカテーテルを用いて卵管に行きやすくさせる。1回の妊娠率は10%程度だが、数回行った場合の累積妊娠率は30%程度。費用1回あたり1~3万円 回数4~5回



STEP4 体外受精

卵巣の中から取り出した卵子と、精子を培養液の中で受精させ、受精卵を子宮に戻し、着床させる方法。妊娠成功率は他の方法より高くなるが、採卵による身体的負担、さらに経済的負担も大きくなる。費用1回30万円程度~ 回数4~5回 ※費用は受診クリニックによって異なります。

子どもがほしいなら、まずはクリニックでの受診を。その気になればいつでも妊娠できる...。きつと多くの女性がそう思っていたはず。でも、気がつけば30代。望んでいるのになかなか授からない...。そんな時、ふと頭をよぎるのが、「不妊」という言葉。「現在、日本では2年間同性生活があるにもかかわらず妊娠が成立しない状態を不妊と呼んでいます。ですが、一般的には避妊をせずに性交渉を行った場合、おおよそ3か月で60%、6か月で70%、12か月で80%の方が妊娠しています。なので、望んでいるのに半年を過ぎ

ても妊娠の兆候がみられない場合は、まずは不妊症を疑ったほうがいいでしょう。また、35歳以上であれば、すぐにでも不妊専門医に相談することをおすすめします」と、徐クリニックの徐院長。そして不妊にはいろいろな原因があり、治療を受ければ必ずしも妊娠・出産できるわけではないという。「年齢を重ねると卵巣老化や卵子の劣化が進み、妊娠をしても流産をするケースがあるため、無事に出産に至るとは限りなくなりません。特に35歳を過ぎると妊娠する力は衰え、40歳以降では治療自体に限界も。そして注意してほしいのが、人によってはもっと早くに妊娠可能なリミットがくることがあります。特に30代前半の女性には妊娠を先送りにせず、1秒でも早いうちにトライすることが、何よりも大切」

また不妊治療には、排卵予定日前後の性交による「タイミング療法」、精子を子宮に直接注入する「人工授精」、さらに卵子を取り出し精子と受精させて培養し、細胞分裂後に体内に戻す「体外受精」など様々な方法がある。「とはいえ、大きなストレスは妊娠が遠のく原因。だから頑張りすぎるのはマイナスです。パートナーとよく話し合い、ほどほどに頑張ることがよい結果を招く秘訣」



徐クリニック ARTセンター 徐 東典院長
最高レベルに整った設備環境や診療科目が備えられた産科産婦人科
● 兵庫県西宮市本橋10-25
● <http://www.jclinic.jp/>

徐クリニック 徐先生に聞く 不妊治療のリアルな現状

“最近の高齢出産ブームはかなりのレアケース! 35歳を過ぎてから治療を始めても妊娠できない人も。望むなら1秒でも早く受診を!”

